はだしのひろば

学校だより
加古川市立平岡小学校
校 長　長谷川 敬志

臨時号

令和５年度全国学力学習状況調査
本校の結果についてお知らせします！

（小学校６年生を対象に実施された調査の結果です）

児童の学習状況は、よくできていた点、課題が残る点ともに、全国、加古川市と同じような傾向が見られました。生活においては、自己有用感が高く、将来に夢や希望をもって学校生活を送っているという点が本校児童の特徴として表れていました。

国語

全国、加古川市の傾向と同じように、図やグラフ、資料などから情報を読み取ることができていました。書かれている文章の目的を意識して、内容を要約する力がついています。しかし、読み取った情報から自分なりの考えをまとめ、文章に書き表すことには課題があり、全国的な傾向と同じと言えます。ただ、本校児童は、「書くこと」の無解答率が低めにとどまりました。これは、授業の最後に振り返りを書いたり、個別探究として自分の考えをまとめたりして、「書くこと」が日常の学習活動に取り入れられている成果といえます。今後は、読み取った内容を自分の言葉でまとめ、表現する力が求められるところです。敬語の使い方なども含めて、言葉の使い方や効果を身に付けられるよう、また児童がより良い表現に多く出合えるよう、教科書だけでなく幅広い読書活動の充実をさせていきます。さらに、言葉の引き出しの充実が「書くこと」の力の伸びにつながるよう指導をしていきます。「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことの中心を捉えて適切な質問をしたり、話し手の意図を正しく理解したりすることに課題がみられました。具体的には、何をはっきりさせるためにインタビューをしているのかという活動の意味があいまいだったり、相手の返答の中で大切なことは何かについて捉えきれなかったりするところが見られました。今後は、何のための活動なのかという目的意識をはっきりさせた言語活動を設定し、自分なりの考察がもてるよう指導していきます。また「読むこと」においては、一つの情報を単体で捉えるのではなく、複数の情報を関連づけて考える力が必要です。資料の特徴を知る学習をすすめたり、友達のいろいろな意見を参考にしたりして、ものごとを多角的に捉えることを指導していきます。

算数

算数の学習への関心が高いことが本校児童の特徴として表れていました。ICT 機器やデジタル教材での学習も進んでいます。よくできていた点は全国的な傾向と同じでした。具合的には、基礎的な計算問題や計算方法の工夫についての問題は、正答率が高かった点、図形に関する問題では、台形や正方形の意味や性質を正しく理解していた点です。しかし、実際の

数値が与えられていないと、底辺や高さと面積の関係について、その大小について判断しにくいという課題が残る点も全国的な傾向と同じでした。具体的には「テープに直線を引いて作った三角形は高さが同じである」という条件を理解し、数値を使わず二つの図形の面積の大小について論理的に言葉で説明をすることに難しさがあったようです。論理的に自分の考えを説明する力が求められます。

今後は、基礎的な学力の習得を更に充実させるとともに、仮の数値をあてはめて考えたり、数値化して考えたりするなど、解にたどりつくための工夫について指導していきます。自分なりの考えを言葉にして発表することや、考えの根拠を明らかにすることの重要性を、協同的探究学習を通じて学習していきます。デジタル社会に対応するために、読み取ったデータを考察し、論理的に言葉で表現する力を育てます。

質問紙の結果より

本校では、時間通りに起床し、朝食をしっかり食べてから登校するという基本的な生活習慣が身に付いている児童が約９割です。登校後、より学習に集中できるよう、軽い運動などを取り入れるなどの計画をしていきます。

自尊感情も高く、９割を超える児童が自分のよいところに気づいており、将来の夢や希望をもって生活をしていることがわかりました。学校では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかというと当てはある」と肯定的に答えた児童が９７％でした。また、８割以上の児童が「学校に行くのは楽しい」と回答しています。友達関係に満足している児童は９割をこえていますが、悩みごとがあれば、いつでも、どの先生にも相談できる体制を整えます。自分や友達を大切にして、今後も楽しい学校生活が送れるよう授業内容や体験活動の充実、行事の精選を進めていきます。

学校での学習においては、タブレットを用いた学習が広く行われるようになりました。授業内容にもよりますが、使用の頻度が「ほぼ毎日」と答えた児童が４割に近く、県平均、全国平均を大きく上回っています。全体では週１回以上使う児童が８割を超えており、児童はタブレットを用いた学習の重要性を強く認識しています。１日当たりの使用時間は３０分程度の児童が最も多く、６割を占めました。主体的・対話的で深い学びにつながる授業スタイルが定着し、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と感じている児童は８割を超えました。今後も、ICT 機器を使用した協同的探究学習をすすめていきます。

家庭学習については、平日１時間以上２時間未満の勉強をしている児童が約３割、１時間未満の児童、２時間以上の児童はそれぞれ２割となりました。読書については「好き」としている児童が６割をこえているにも関わらず、学校や地域の図書館の利用率が低いことがわかりました。学校では、図書室の利用を呼びかけるとともに、児童にとって使いやすい図書室を整備していきます。